



JCHO NEWS



years

- 03 役員メッセージ
- 04 ONE JCHO（理事長訪問）
- 06 第9回JCHO地域医療総合医学会
- 08  JCHO・かえるチャレンジ！
仙台病院
三島総合病院
大和郡山病院
九州病院
久留米総合病院
湯河原病院
- 14 病院機能評価 桜ヶ丘病院（後編）
無人売店Open！ 清水さくら病院
- 15 中京病院 独自のローテーション
- 16 「認定看護管理者教育課程」実践報告会
看護師特定行為研修修了者フォローアップ

10周年記念：JCHO学会の歴史

第1回 2016.2
品川第2回 2016.9
品川第3回 2017.11
品川第5回 2019.11
横浜

第4回 2018.11 品川

第8回 2023.12
三重第7回 2022.10
熊本

第6回：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止

役員メッセージ

看護・介護・地域包括ケア担当理事

Spring has sprung 島田 陽子

I can't wait for Spring to come, it's going to be full of new beginnings for me! 福は内！

EPISODE 2025

温故創新、モウセンゴケのセレナーデ

4月に着任した看護・介護・地域包括ケア担当理事の島田陽子です。

よろしくお願いいたします。

私はJCHOで仕事をする中で、「温故創新」をいつも頭の片隅に置いています。

JCHOは法人発足から10年ですが、各施設はそれ以前からの長い歴史を持ち、その中で培ってきたものが多々あると思います。例えば看護部門では、看護師の養成機関を持ち、法人独自の研修施設で様々な研修を行うなど、看護師の教育・研修に歴史と伝統があります。こうしたことはJCHOの強みの一つだと思います。これから何に取り組むべきかを考える際、まずはこのような「足元」にある強みは何かを考え、そこから何ができるかを着想し、着手するという手法があります。「できない」と諦めずに、「できない」理由に対する見方を変えて一歩踏み出すことに役立つ思考様式であり、変化の激しいVUCA時代*の中で、とても参考になる手法だと思っています。JCHOの強みを生かし、新たな取り組みにもチャレンジしつつ、JCHOの医療・介護サービスのさらなる拡充に向け引き続き取り組んでいきたいと思っています。

*VUCA（ブーカ）時代：変化が激しく将来の予測が困難な状態を指す言葉
Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、
Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語

わたしの育てている
モウセンゴケちゃん

地域に「良質な医療」という種をまき
教育という水をやると
信頼という芽がでて
「JCHO」という花が咲く



下関医療センター



当院は高齢者救急を積極的に受け入れることで、高齢層の人口比率が高い下関市の医療を担ってまいります。

相模野病院



常に最適な医療を提供するため、職員一丸となってより良い医療環境の実現に向けて努力します。

群馬中央病院



地域医療の要として、関連機関と連携しながら地域の皆様に愛される病院づくりに取り組んでいます。

若狭高浜病院



私達は、良質な医療・介護を提供し、人々の人生に寄り添い、安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

千葉病院



附属老健と共に医療から介護まで地域と連携を図り訪問看護等により地域住民が安心できる医療を目指します。

東京城東病院



地域の皆様に必要とされる安全な医療・福祉の提供に努めております。

第9回JCHO地域医療総合医学会を終えて

2024年11月29日～30日、仙台国際センターにおいて、第9回JCHO地域医療総合医学会を開催しました。熊本、三重に続いて地方開催3回目となる今回の医学会には、2,100名の参加者と過去最大数となる553題もの一般演題をいただくことができました。

「ともに築こうJCHOの強み」をメインテーマに山本理事長による講演「変えよう、変わろう、JCHO」をはじめ、“教育のJCHO”を目指した魅力あふれる学会になり、参加者の皆様から「仙台にきて良かった。」「ホスピタリティに富んだ素晴らしい学会であった。」と言っていただき、スタッフ一同ほっとしております。これもひとえに関係者の皆様のご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

JCHO仙台病院 院長
第9回JCHO地域医療総合医学会会長
村上 栄一



JCHO仙台病院
オリジナルキャラクター
「ずんずん」

を開催しました

第9回JCHO地域医療総合医学会

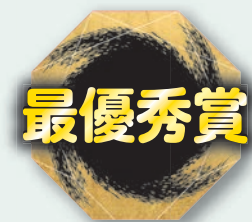


—開催日—
2024年11月29日～30日

—開催場所—
仙台国際センター



JCHO仙台病院



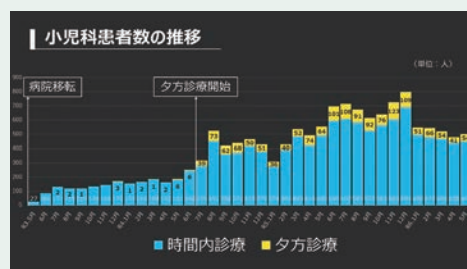
チーム名：小児科チーム

地域が求める小児医療への挑戦！

看護師長
樋場 美幸

この度は『地域が求める小児医療への挑戦』として、最優秀賞という輝かしい賞を頂戴し大変光栄に思います。

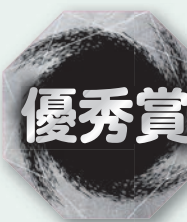
地域の子どもたちの健康と共働き世帯の育児支援を図るため、多職種で構成する「小児科チーム」を立ち上げ、令和4年度より小児科夕方診療を開始しました。仕事終わりに子どもが受診できる環境を整えたことは、地域の働き世代に対応した小児医療を実現することができたと思っております。地域を支えるJCHOの使命として、今後も地域住民のニーズに応えた小児医療を提供し続けていきたいと思います。



病院長より

夕方診療は「地域の働き世代」に対応した小児医療のかたちであり、地域住民のニーズに応えたこの医療の提供は、「地域を支えるJCHOの使命を実現する挑戦の姿」とも言えます。今後も仙台病院として課せられた役割を果たしていきたいと思います。

JCHO三島総合病院



チーム名：Mishima Programing Team (MPT)

勤務管理簿から給与インポート作成まで…
読み取り専用Excelによる業務改善の取り組み総務企画課技能職長
岡本 直紀

当院は各職員から様々な意見やアイデアを頂き、Excelのプログラミング機能を活用し、自主制作による全職員対応の勤務管理のデジタル化に取り組みました。

各職員の入力の手間が簡素化され、超過勤務時間の減少にも貢献しました。出退勤時間・休暇情報・勤務時間・超過勤務時間等の情報を1つのsheetに表示させ、申請まで出来ることで各種情報の相互チェックが可能となりました。各所属長の承認も容易となり、一元管理が出来るようになりました。



病院長より

紙運用を廃止できたことで、転記ミスの撲滅、業務の効率化、勤務管理に関する情報の一覧化が達成できました。「患者さんのもとにいく時間がふえました」という看護師の声をいただいて、医療の質向上にも役立ったことを実感しました。

JCHO大和郡山病院



チーム名：算定戦隊あげレンジャー

優秀賞

やばいぞ、目標数値に手が届かない
「入退院支援加算1」からうまれたチーム力

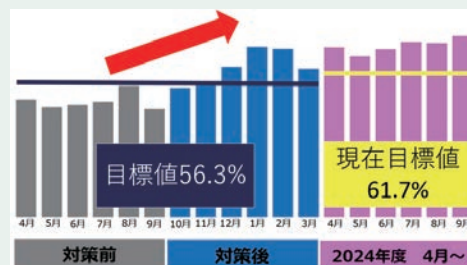
患者総合支援センター 医療社会事業専門員
中野 真伍

私たちは「入退院支援加算1」の算定率向上に取り組みました。

患者情報やカンファレンスの内容が薄いことが問題であったため、関係する部署を巻き込み、情報収集シートの書式変更、カンファレンスの参加者や開催日を増やすなどの改善を行いました。

目標値が達成することが出来ただけでなく、旗を振れば協力してくれるという院内に隠れていたパワーを発見することも出来ました。

今後も多職種で力を合わせて改善に取り組めます。



病院長より

一つの課題に向かって多職種でチームを組んで解決するための道筋が出来たと思います。院内に埋もれているパワーを活用して、患者支援の充実や病院経営の改善に向けてさらに貢献して下さることを期待します。

JCHO九州病院



チーム名：新時代～心電図至急判読～

優秀賞

12誘導心電図における
至急判読運用の再構築と判読業務の効率化を図る

主任臨床検査技師
宗 麻衣

この度は優秀賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄です。

今回の活動は伝統的に行ってきた“心電図至急判読”を、医師・技師ともに効率的かつシステム上で完結できる体制に一新しようと循環器内科と共同で行いました。

多職種で対策を行った結果、至急判読は予想を上回る83%削減できました。昔から当たり前に行っている業務も問題解決・課題達成思考を身につけることで慣習を変え改善できました。今後も職種横断的に改善活動を行い、医療の質向上に努めていきます！

病院長より

今回の取り組みは、当院のTQM活動発表大会(2023年)において、注目を集めたものです。心電図至急判読業務の効率化をチームで進めたことにより、検査科と循環器内科双方での改善、波及効果が得られ、とても有意義であったと思います。

TQM 活動

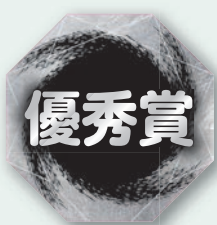
Total Quality Management の定義

組織全体で医療の質の向上を目指す

JCHO久留米総合病院



チーム名：プレジデントチーム



プレアボイドを用いた医師インシデント報告率の増加に向けた取り組み

副院長
亀井 英樹

この度は、優秀賞という名誉ある賞を頂きまして、関係の方々に厚く御礼申し上げます。当院では、医師からのインシデントの報告率が全体の約3%程度と伸び悩んでおりました。その現状を改善するために、薬剤部からのプレアボイド報告をLevel 0として医療安全管理部から医局に院内メールで促し、医師インシデント報告率が増加するように多職種連携で取り組みました。その結果、医師インシデント報告率は短期間で全体の一割を超え、インシデントに対する医師の意識変化に繋がったと思います。



病院長より

本活動は医師のインシデント報告が少ない事の解決の一方法として行った取り組みでした。医師のインシデントレポート記載を習慣付けるきっかけになりチームに感謝します。また、優秀賞受賞も大変喜ばしいことでした。



JCHO湯河原病院

チーム名：休日リハビリ何とかし隊

多職種でやろう！休日リハビリテーションの輪
～3歩すすんで2歩さがらないリハビリテーションを目指して～看護師長
津吉 康子

「休日のリハビリ量を減らしたくない、何とかしたい」と多職種間で悩んでいましたが、看護管理者が先導し、PT・OTも一丸となり、2つの病棟が協力のもと、休日に行える体操を考案し、実施しました。

継続を促すため「やるなら楽しみながら」と考え、湯河原夏祭りで聴き慣れた『やささ踊り』のリズムに合わせたところ、ご高齢の患者様にも喜ばれ、積極的に参加をいただきました。

これからも、多職種連携で業務改善に取り組んでいこうと思います。

湯河原やささ音頭を
聞くと、湯河原近隣の
患者は元気が出ます



肩甲骨を動かす運動

病院長より

手術等の初期治療を終えて、休日が続くことでブレーキがかかることは病院での宿命的問題でした。当院のリハ部と看護部のスタッフが協力して、限られた休日勤務者で効率よく楽しく安全に体を動かしていく試みを編み出し、実行してくれたことを誇りに感じます。

病院機能評価 桜ヶ丘病院 (後編)

「病院機能評価について 桜ヶ丘病院より(受審後)」について

JCHO桜ヶ丘病院 給与係長 山本 悟

当院は築60年以上の建屋でハード面だけをみても認定は難しいと思っていました。しかし院長の鶴の一声で受審が決まり、多くの不安を抱えスタートしました。受審日が近づくにつれ書類も形になり、ケアプロセスやカルテレビューに関しても模擬訪問審査や練習を何度も行いましたが、不安は常に残っていました。しかし私の憂いはどこへやら、結果はAが59、Bが16、Cが1項目と予想以上の評価となり、Cは即改善報告し、Bも可能な限り改善予定です。改めて当院は逆境に強い病院だと感じた今日この頃です。



本売店は現金不要、キャッシュレス決済で利便性UP!

静岡県内の病院で 初!無人売店Open!

JCHO清水さくら病院(令和7年3月1日開院)では静岡県で初めて病院内に無人売店を開店いたします。昨今の深刻な人手不足やコスト上昇に伴い、規模の小さい病院への有人コンビニ等の誘致は非常に困難な状況となっております。そのような状況の中、マックスバリュ東海株式会社の運営する無人店舗Maxマートを開店することになりました。豊富な品揃えとお買得な商品を用意し少しでも利用者の利便性向上にお役立ていただきたいと考えております。

キャッシュレス セルフレジの 使い方

手順1 置き台に購入商品を置きます。	手順2 画面下のスクナで商品に付いている「バーコード」を1つずつスキャンします。	手順3 スキャンした商品はお手持ちの袋に入れるか、台の上に置いてください。	手順4 クレジットカード 電子マネー WAONなどの電子マネーまたはクレジットカードでお支払いください。
----------------------------------	--	---	---

愛知県 人気 No.1 中京病院独自のローテーション

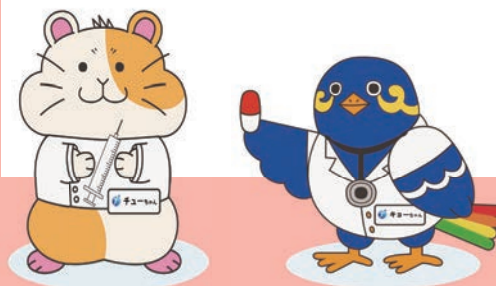
JCHO中京病院 統括診療部長 前田 憲幸

当院では研修医教育に力を入れ、実践的なスキル習得のための様々な独自の取り組みを行っています。その一つが「外科総合」ローテートです。整形外科、形成外科、耳鼻科、泌尿器科、脳神経外科の5科を8週間で同時に研修でき、ERで頻繁に遭遇する疾患への対応力を高めます。短期間の細切れ研修では得られない多彩な症例経験を提供し、効率的に学べる環境を整備しています。



このような取り組みは多くの研修医・医学生から評価され、

2024年度医師臨床研修マッチングで当院は**愛知県人気 No.1**となりました。



「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」

研修受講1年後の 実践報告会

計画・実践・評価そして報告 さらに力をつけるために！

看護研修課では研修受講後のフォローアップを行っています。
研修で立案した看護管理課題解決に取り組み、その成果を共有しました。(対面+WEB)

旧交を温めながら情報交換も行いました。

修了者の皆さんは堂々と発表され、成長を実感しています。

今年の受講者にとっては大変参考になり、有意義な報告会となりました。



看護師特定行為研修修了者の フォローアップ講習会

本講習会は厚生労働省の委託を受け、特定行為の実践で重要な判断をするスキルの維持・向上を目的に開催しました。

星ヶ丘医療センターの林講師から臨床推論の講義と事例検討、神戸中央病院の木下講師から特定行為研修修了者の活動について講演頂きました。研修では、特定行為の実践に必要な臨床推論の力を磨き、また、自己の課題や解決に向けた意見交換を行いました。他施設の修了者とも繋がりを深めることができ、有意義な講習会となりました。

同じ悩みを共有でき、
今後の活動に活かそう

他施設の特定行為
修了者と事例検討
できた事でより
理解が深まった



当院でも疑似患者を
使用した臨床推論を
実施していこうと
思う



独立行政法人
地域医療機能推進機構
Japan Community Healthcare Organization



本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 ☎ 03-5791-8220
<https://www.jcho.go.jp>



地域と共に10周年！JCHOは、これからも皆さまと一緒に歩み続けます！